学校番号	１００６

令和２年度　理科

教科	理科	科目	地学	単位数	４単位	年次	３年次
使用教科書	「地学　改訂版」（啓林館）						
副教材等	なし						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

地学が取り扱うものは顕微鏡サイズの化石、無限大とも思える宇宙空間、宇宙が誕生した遙か昔から太陽が死を迎える５０数億年の未来まで、人間の寿命やサイズからは及ばないものを扱います。それらの教材を学ぶことによって、様々な視点を持ち、地球上の生物である人類のあるべき姿に考えが及んでほしいと思います。
難しく考えず、新しい世界に触れて下さい。予習はせず、興味を持ったことに出会ったら、どんどん調べていって下さい。

2　学習の到達目標

地球とその内部、さらに、その周囲環境である宇宙などについて、理解と探究心を深め、地球科学に独特な時間や空間に対する見方や考え方を身につける。
自然科学における普遍的な基本概念や原理・法則について系統的な理解を深め、科学的な自然観を育成する

3　学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a:関心・意欲・態度	b:思考・判断・表現	c:観察・実験の技能	d:知識・理解
観点の趣旨	地学的な自然の事物・現象に関心や探究心を持ち、意欲的にそれらを探究しようとするとともに、科学的態度を身につけている	地学的な自然の事物・現象の中に問題を見いだし、探求する過程を通して、事象を科学的に考察し、導き出した考えを的確に表現している	地学的な観察実験を行い、基本操作を習得するとともに、それらの過程や結果を的確に記録、整理し、自然の事物・現象を科学的に探求する技能を身につけている	地学的な自然の事物・現象について、基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身に付けている
評価方法	授業態度 発問評価 ノート提出 実習報告書 小テスト 定期考査	授業態度 発問評価 ノート提出 実習報告書 小テスト 定期考査	授業態度 発問評価 ノート提出 実習報告書 小テスト 定期考査	授業態度 発問評価 ノート提出 実習報告書 小テスト 定期考査

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。
学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	主な評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
一学期前半	固体地球	地球の概観 地球の内部構造 プレートと地球の活動 地震 火山活動と火成岩の形成	○	○	○	○	a：地球の形状の調査方法等に興味を持って意欲的に学習しようとする。 b：地球の概要を具体的に把握できる。 c：岩石、鉱物の判別方を習得し，結果を適切に表現できる。 d:地質現象の基本的知識を身につけ，現象が地球内部エネルギーと深く関連していることが理解できる。	学習状況の観察 ノートやワークシートの記述 発問に対する解答 定期考査の結果
一学期後半	地球の歴史	先カンブリア時代 顕生代 堆積岩とその形成 地層と地質構造	○	○	○	○	a：地球の歴史に関心を持ち，積極的に調べようとする。 b：生物の多様化，環境適応を理解し，生命の重要性も判断できる。 c：化石の探究活動を行い，結果を適切に表現できる。 d：生物が，環境変化と関連し進化しことが分かる。	
二学期前半	大気と海洋	地球の歴史の組み立て 大気圏 水と気象 地球のエネルギー収支		○	○	○	b：大気運動で，気象現象が出現することを推定できる。 c：日射量の違いを調べ実験の技能や結果の整理法などを自らのものにすることができる。 d：大気の水平方向の循環から熱輸送が行われ、天気の変化など日常生活と密接に関連していることが分かる。	
二学期後半	日本の気象	大気の大循環 海水の循環 冬から春の気象 夏から秋の気象	○	○	○		a：海洋に関心を持ち，海洋と大気の関係を調べようとする。 b：海洋の特徴を考え，海洋と大気の関係を推定できる。 c：風向から台風進路を予想したり，天気図から天気の変化を予想したりすることができる。	
三学期	宇宙の構造	太陽系の誕生、天体 太陽の誕生と進化 銀河系とまわりの銀河 宇宙の姿	○	○	○	○	a：星野観察から天体への関心を深め，星の構造や進化，宇宙の成り立ちについて積極的に学習しようとする。 b：地球や惑星の運動について科学的に思考することができ，太陽系の構成とその特徴について判断できる。 c：宇宙が膨張していることを，モデルを使って確かめることができる。 d：太陽系とそれを構成する惑星についての知識を身につけ，地球と太陽系の天体の運動について理解できる。	

※　表中の観点について　a:関心・意欲・態度　　b:思考・判断・表現
　　c:観察・実験の技能　　d:知識・理解

※　年間指導計画（例）作成上の留意点

・原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において特に重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について○を付けている。